

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 5月31日

【評価実施概要】

事業所番号	0172001059		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホーム ユニティ小樽		
所在地	小樽市銭函3丁目297番地5 (電話) 0134-62-1294		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1番地		
訪問調査日	平成19年5月28日	評価確定日	平成19年6月12日

【情報提供票より】 (平成19年4月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)18年 3月 28日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14人, 非常勤 0人, 常勤換算 12人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋一部2階建て 造り		
	2階建ての ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000 円	その他の経費(月額)	20,000円 10,000円(暖房費11-3月)
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,400 円		

(4) 利用者の概要 (4月30日現在)

利用者人数	17名	男性	6名	女性	11名
要介護1	6名	要介護2	4名		
要介護3	3名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2			
年齢	平均 81歳	最低	68歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人ひまわり会札幌病院 札幌デンタルクリニック
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームユニティ小樽は、居間は吹き抜けになっており、天井からの採光は明るく、広々として落ち着きのある建物である。開設して1年足らずあるが、利用開始前に本人や家族にホームを見学してもらい、見学が困難な場合は管理者が訪問するなど、本人や家族が不安なく入居できるよう配慮している。管理者及び職員は、日々のケアの向上に意欲を持って取り組んでおり、職員の教育も計画的・継続的に行われている。浴槽の湯は利用者一人ひとりの入浴ごとに取り替え、毎日の献立は管理栄養士が栄養バランスに配慮し、各ユニットで異なる献立にして好みの食事を選択できるよう配慮するなど様々な工夫がなされている。町内の老人会、盆踊り、中学校の運動会や見学会などに積極的に参加し、ホームの会議室を定期的に町内会や老人会、地域の踊りの場に提供するなど地域の人々との交流も盛んである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	ホーム開設間もないため、今回のサービス評価が初回であるが、今回の自己評価の実施には職員全員で取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果を踏まえ改善に取り組んでいくことを、全職員で確認している。今後は評価の意義の理解と活用を、会議や個々のミーティングを通して全職員の共通理解を更に深めていく。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	開設して、1年足らずであるが、運営推進会議は既に7回目が実施されており、ホーム側からの報告とともに、参加者からの意見・要望を受け、双方向的な話し合いを行っている。同時に、市の窓口を頻繁に訪問して情報提供を行っており、担当者に研修の講師をお願いするなど市の協力を仰ぎながらサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時には積極的に声かけをして、利用者の状況について話をしている。また、毎月定期的にホーム便り、利用者の日常生活の様子を書いた手紙、スナップ写真などを郵送している。その際、毎月の出納明細と、領収書のコピーも同封している。家族に対しては、気軽になんでも話し合える雰囲気作りに努めており、出された意見・要望等はミーティングなどで反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームとして、町内の老人会、盆踊り、中学校の運動会や見学会などに参加している。また、ホームの会議室を定期的に町内会や老人会、地域の踊りの場に提供し、利用者とともにホールでお茶を飲んでもらうなど、地元の人々との交流を積極的に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、利用者が、「地域の中でその人らしく生活を支えるケア」の具体的なイメージを持って事業所独自で作上げた理念である。しかし、表現がやや抽象的なことと、パンフレット等への記載もやや不明瞭である。	○	地域密着型サービスとしては何が大切かを、再度全職員で確認し、具体的な表現を補足するなど工夫して、より分かりやすい事業所理念を作り上げていくことを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用のオリエンテーションでは理念について説明し、新規採用者には理念のコピーしたものを携帯してもらうなどで理解を促している。また、毎日の申し送り時には全職員で理念を唱和して意識付けを行い、理念の共有化と実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームとして、町内の老人会、盆踊り、中学校の運動会や見学会などに参加している。また、ホームの会議室を定期的に町内会や老人会、地域の踊りの場に提供し、利用者とともにホールでお茶を飲んでもらうなど、地元の人々との交流を積極的に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム開設間もないため、今回のサービス評価が初回であるが、自己評価の実施には職員全員で取り組み、外部評価の結果を踏まえ改善に取り組んでいくことを、全職員で確認している。	○	評価の意義の理解と活用を、会議や個々のミーティングを通して全職員の共通理解を更に深めていくことを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は既に7回目が実施されており、ホーム側からの報告とともに、参加者からの意見・要望を受け、双方向的な話し合いを行っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の窓口を頻繁に訪問して情報提供を行っており、担当者に研修の講師をお願いするなど市とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には積極的に声かけをして、利用者の状況について話をしている。また、毎月定期的にホーム便り、利用者の日常生活の様子を書いた手紙、スナップ写真などを郵送している。その際、毎月の出納明細と、領収書のコピーも同封している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に対しては、気軽になんでも話し合える雰囲気作りを努めており、出された意見・要望等はミーティングなどで反映させている。	○	家族が意見・不満・苦情等を表せる機会作りのため、家族も参加する行事の際に、管理者や職員との話し合いの機会を設けたり、年1回程度のアンケートを実施するなどの取り組みを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームが開設間もないため職員の異動等があったが、利用者のダメージを防ぐため職員間の引継ぎ等には細心の注意を行った。	○	担当職員の異動に関しては、利用者への配慮とともに、家族等への不安に配慮して、手紙などによる状況説明や報告をきめ細やかに行っていくことを期待したい。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成のために、計画的継続的な内部研修・外部研修プログラムが計画・実行されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人経営のグループホームとの日常的な交流、他法人経営のグループホームとの月1回の共同研修など、同業者との交流を通じ、質の向上に積極的に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、本人や家族にホームを見学してもらったり、気軽に遊びに来てもらうなどしている。また、見学が困難な場合は、管理者が本人や家族を訪問するなど、本人が不安なく納得した上でサービスを利用するよう配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、農作業の得意な利用者には、畑作りを教えてもらいながら一緒に行ったり、料理の得意な利用者には食事の仕度を手伝ってもらうなど、利用者と共に過ごし支えあう関係を築くよう努めている。	○	毎日の食事の配膳や下膳など、今以上に利用者と協働しながら生活できる場面を作っていくことを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々のかかわりの中で、職員全員が、会話や表情から一人ひとりの思いや意向について関心を寄せ、把握しようと努めている。意思の疎通が困難な利用者には、家族の協力も得ながら情報を得るようにしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるように、家族や関係者の意見を反映しながら、サービス担当者会議を通じて、職員全員で話し合いながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月ごとに見直している。随時、ケース記録に状況の変化を記録しておいて、見直しに反映させている。入院など、大きな状況変化があったときは期間満了前でも見直しをしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて、通院や買い物、外食のための送迎をおこなっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医が月1回往診に来ている。そのほかに、個々の利用者の受診については本人および家族の要望に合わせて、かかりつけ医への通院に送迎をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針は、全ての利用者について、利用契約の時に確認している。その後の意向の変化については家族と話し合った時の家族相談表に随時記録している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りを傷つけないような声かけや対応には職員全員、よく心がけている。個人情報の保護については従来より注意深く対応しているが被虐待者の入居があった際、家族との対応について多く学ぶところがあった。さらに意識を高めるために勉強会を計画している。	○	個人情報保護について、総合的な勉強会を実施し、いっそう認識を高めてゆくことを期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	寝起きの時間、食事、入浴などほとんど全ての行動についてホームの都合を強いることはなく、本人の自由に任せている。喫煙については契約時に了解を得て、全面禁煙にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の好みを考慮して管理栄養士が立てている。2つのユニットで違う献立となっており、好みによっておかずの交換が行われたりもしている。調理、盛り付け、後かたづけを職員とともにやっている利用者もいる。職員も利用者と一緒に食事をし、ともに楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴槽の湯は一人ひとりの入浴ごとに取り替えていること、同性介助を心がけていることも特長である。時間帯は日中だけであり、各人3日に1回ぐらいの頻度になっているが、シャワー浴も含めて毎日入浴している利用者もいる。	○	職員の手が回らないので今のところ日中だけの入浴であるが、始めは少ない回数からでも、夜間浴を取り入れる工夫を望みたい。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	月1回以上行事を行っている。各人の趣味について家族から情報を得て、やりやすいように援助している。役割分担は、各自の意向によって、雪かき、畑仕事、モップがけ、古新聞の整理、食事作り、後片付け、買物など、多方面にわたって行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周辺によい散歩コースがないため、離れた公園まで車で行き、散歩しているが、車の都合や通院の事情で制約が多い。	○	遠方へ行くまでもなく、ホームの庭に出る程度でもよいから、外の空気を吸う機会を増やす工夫を望みたい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室、玄関に鍵はかけていないが、玄関ドアにはセンサーを設置している。外出の気配が見えたときは職員が声をかけるなり付き添うなどして誘導している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練を行っているほか、救命救急講習会を内部で年2回以上、消防署の指導で年1回行っている。非常時の避難誘導、連絡のマニュアルは完備している。近くの提携病院を非常時の緊急避難場所として契約している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が立てており、栄養バランス、食べる量は十分確保されている。一人ひとりの状態に配慮して必要に応じて、摂取量の少ない人には補助食品(エンシュア)を利用するなどの工夫をしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は2階の吹き抜けになって天井からの採光によって明るく気持がよい。広さもたっぷりあるが、縦長の設計になっているので、落ち着きがあってなおかつ広々とした感覚を与える。壁には利用者の作品や、お土産などが飾られてあり、楽しい雰囲気がかもし出されている。懐かしいメロディーのBGMも静かに流れている。	○	今後も、現状に満足することなく利用者や家族、来訪者の意見も取り入れてさらに居心地のよい空間になるよう、日々の工夫を期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、装飾品、置物、記念の品など利用者のなじみのものが豊富に持ち込まれており、本人それぞれの個性に応じた居心地のよい空間になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。